

第2節 歴史を継承し、文化を創造するまち

2 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

<A 基本計画の目標>

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	51.4 %	56 %	65.6 %	66.1 %	58.8 %	↓

<C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

	自己評価
【経営企画部】	
鎌倉の文化の質的向上や文化活動の活性化を図るため市民文化祭やジャズ祭を開催しました。市民文化祭では、公募による美術展・写真展・書道展、また団体による鎌倉彫展・ばら展などの展示会と公募団体による演奏・演劇などの公演を実施しました。特に美術展、写真展では応募作品の審査、表彰を行いました。	◎
平成15年に策定された「鎌倉市文化推進プラン21」の実現状況等を振り返り、現況と照らし合わせ、鎌倉文化の将来の方向性を示すものにするため、改訂作業を行いました。	◎
市内小中学生を対象に、鎌倉にゆかりのある文化人・芸術家の協力を得て、人生の先達たちの思いを次世代に伝える出前授業を行いました。	◎
愛唱歌の普及のため、市民運動会など市の関連事業で愛唱歌の演奏や庁舎内で愛唱歌の放送などを行いました。	○
【鎌倉芸術館の予防修繕】 前年度に引き続き、計画的に施設・設備等の維持修繕を実施しました。	○
【川喜多映画記念館の運営】 川喜多映画記念館は開館から2年目を迎え、来館者ニーズに応える事業を指定管理者が企画し好評を博しました。また、旧和辻邸については、平成23年台風15号による建物被害を修繕するとともに、そのほか外壁部分の修繕を予算の範囲で行いました。	◎
【(仮称)鎌倉美術館の整備】 美術館の市内適地の情報収集を行うとともに、美術工芸作品収集選定委員会に意見を聞き、市への寄贈品等の円滑な収集事務を進めました。 また、美術品保管委託として、美術品保管実績のある民間倉庫において、市が保有する美術品の適正な保管を行いました。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【経営企画部】

若者に対する企画力が不足している。市の若手職員、若手市民を積極登用して、企画力を上げてほしい。
ジャズ祭もよいが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないものか。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
モニタリング制度の検証結果を是非公開して頂きたい。特に施設の利用者を如何に増やすか、に注目したい。
“歴史を継承し、文化を創造するまち”を認識し、官民協働のもと努力を重ねていきたい。



若い世代の事業参加を促す企画として、若者世代による市民団体と協議を重ねる中で、団体提案型協働事業の提案を促し、発案されましたが、採択には至りませんでした。今後若い世代を巻き込んだ手法を検討します。
平成22年4月に映画文化の発信の場として鎌倉市川喜多映画記念館が開館しました。 若い世代が文化活動、鑑賞できる場として鎌倉芸術館等、市の文化施設があります。そこでは市の指定を受けた指定管理者が毎年工夫を凝らした事業を展開しています。
モニタリング結果についてはホームページ等で公開することを検討します。
鎌倉ゆかりの文化人による小中学校へのアウトリーチ事業として「ようこそ先達事業」を昨年度から実施しています。今後は市内文化団体等に協力を仰ぎ、さらに充実させるほか歴史・文化の気風を市民が体感できるような事業を検討します。

<E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】

イベントの参加率が低い若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させる必要があります。
※未達成の理由<支障となった理由> 新規事業では小中学生を対象としたので、若い世代の参加者は増加しましたが、一部既存文化事業の若い世代の参加が少なかったことが課題となりました。
【鎌倉芸術館の予防修繕】 ホール設備等の修繕には時間を要し、施設の長期間の休館が必要となるため、期間を集中させて修繕することが求められます。今後、長期的展望に立った維持修繕計画を作成する必要があります。
【川喜多映画記念館の運営】 展示スペース等の制約がある中、更なる来館者増となる企画を検討するとともに、鎌倉の映画文化発信の拠点として、様々な意見を聞きながら企画検討を進める必要があります。
【(仮称)鎌倉美術館の整備】 用地選定が進まない中、具体的な施設内容の検討が進んでいません。
※未達成の理由<支障となった理由>

<F 今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

高齢者の人口割合が高い本市では、文化活動への参加者の年齢も高齢化の傾向にあります。今後も関係団体等との協働により、若い世代が参加しやすい事業にするための検討を行います。また、新たな文化の創造、発信の意欲のある若者が自ら行う文化事業の支援方法も検討します。

【鎌倉芸術館の予防修繕】

次期指定管理期間(平成28年度)以降に全館休館の想定を含め、長期的展望に立った大規模修繕計画の検討を行い、施設整備の全体像を明らかにしていきます。

【川喜多映画記念館の運営】

モニタリングや連絡調整会議等により、適切な事業運営や施設管理が行われているかを確認する。また、機器設備等の適切な維持管理を行うとともに、映像資料と関連付けた展示企画の検討及び鎌倉の映画文化発信の拠点として、様々な意見を聞きながら企画検討を進めます。

【(仮称)鎌倉美術館の整備】

公共施設の全市的配置計画の策定を所管する公共施設再編推進担当等庁内関連部署と連携しつつ、引き続き、用地の選定や事業規模に見合う施設内容についての検討を行います。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民文化祭への来場者数(+)	毎年、鎌倉市が主催する市民文化祭の年間来場者数	27,627 人	45,361 人	41,860 人	45,038 人	44,147 人	27,700 人	27,900 人
鎌倉芸術館・竈木清方記念美術館・鎌倉文学館・鎌倉国宝館の利用度(+)	4施設の年間利用者数の合計	686,854 人	843,509 人	831,522 人	684,180 人	692,964 人	688,000 人	688,000 人
市民文化度(+)	ここ1年間に、文化的イベントに参加したり、文化施設に行ったりしたことがある市民の割合	43.9 %	39.2 %	37.8 %	33.9 %	37.1 %	45 %	46 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	600,015千円	773,146千円	499,070千円	494,044千円				
	(国・県)	11,428千円	46,174千円	0千円	1,764千円				
	(負担金等)	5,991千円	5,662千円	5,544千円	960千円				
	(一般財源)	582,596千円	721,310千円	493,526千円	491,320千円				
	人員配置数	4.9人	5.9人	5.9人	6.9人				
	人件費 (B)	46,906千円	54,343千円	51,043千円	59,400千円				
	総事業費(A+B)	646,921千円	827,489千円	550,113千円	553,444千円				
	対前年比		127.9%	66.5%	100.6%				

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・多彩な活動を進めている。
- ・若年層への働き掛けで努力は認められた。
- ・若い世代の参画をめざして様々な展開を試みている。
- ・若い世代の参加を促すため、協働事業の募集時に、若い世代による市民団体からの発案を促したことは評価できる。昨年度は採択には至らなかったが、今後も継続し、実績を出してほしい。
- ・小中学生への出前講座が実施されている。
- ・鎌倉ゆかりの文化人による小中学校へのアウトリーチ事業として「ようこそ先達事業」を昨年度から実施されている。
- ・平成22年4月に映画文化の発信の場として鎌倉市川喜多映画記念館が開館した。
- ・市内にいくつかある記念館、美術館では良い企画展を行っている。
- ・市民文化祭への来場者が目標値を大きく上回っており、関心の高さを示している。



課題・提言

- ・世界遺産登録と相まって、鎌倉の文化をどのように守り、発展させるかといった継承に関する取組が必要である。
- ・文化に対する取組は、未だ見切り発車の感が否めない。
- ・ジャズ祭もよいが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないものか。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。市民文化祭、ジャズ祭等のイベントは市民主導に移管していくべきである。
- ・新たな文化を創造・発信するために若い世代の力を動員できないか。若い世代の文化活動、観賞の場として、市川喜多映画記念館が開館されたことから、実際に若者の利用数、割合等がどの様であるかを分析して頂きたい。一方、川喜多映画記念館は閑散としており、適切な事業運営の検討が望まれる。本施設も含め、施設の独立採算制の検討が必要である。
- ・モニタリング制度の検証結果を公開する必要がある。
- ・(仮称)鎌倉美術館については、計画期間の見直しを行うべきである。
- ・印象的な広報で市民や観光客に各文化イベントを知らせて頂きたいと思う。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、**良好であった。**